

平成 29 年度第 6 回（通算第 92 回）

山口国際文化化学研究会へのおさそい

教員世話人 川口喜治

院生世話人 荒木麻耶 ビジネス・ILU・IFU

十亀陽太 中村光里

- 日時 平成 29 年 11 月 22 日（水曜日）16 時 25 分より
- 場所 B202（北キャンパス）
- 主催 大学院国際文化化学研究科
- 発表者 国際文化研究科 教授 林炫情

韓国語 CLIL（内容言語統合型学習）教育実践と今後の展望

要旨

報告者は、「内容言語統合型学習 (CLIL: Content and Language Integrated Learning) 実践を目的とする韓国語教育プログラムの開発」を研究テーマに、昨年度 8 月末から今年の 3 月まで中国大連外国語大学及び韓国釜山大学校人文大学で滞在研修を行いました。研修中は、グローバル化が進むなかでの中国と韓国における外国語カリキュラムや教材研究、授業観察などを通じて、本学の韓国語教学の改善をはかることができました。また、その成果を活かし、CLIL アプローチをベースにした平成 29 年度新規開講科目「インターカルチュラルスタディーズ韓国語」授業プランを作成し、現在教育実践を行っている最中です。本発表では、国内外の言語教育研究動向をふまえて、発表者が研修中に行った教育研究活動、そして本学での「インターカルチュラルスタディーズ韓国語」の授業実践後の成果と課題について報告します。

また、現在報告者の研究グループでは、CLIL を柱とする韓国語教育の実践と拡充を目指して、韓国語「アダプティブラーニング学習システム」の開発を構想中（科研申請中）ですが、その内容についても少し紹介させていただきます。「アダプティブラーニング学習システム」は、韓国語の文章の読みやすさを測定する文章難易度判定システムと学習者作文支援システム、そして学習者の学習スキルを自己評価し、学習者の自律学習を促すことができる学習支援システムを連動させたものです。この 3 つを統合することで、将来的には学習者が自らの韓国語の運用能力、学習スキルを評価し、自分のペースで無理なく学習できる魅力あふれる学習コンテンツがインターネットから手元に届けられるシステムが現実のものになると期待しています。